

平成30年度 あしかりこども園 自己評価

1. 保育方針

愛情につつまれながら安心して生きる力を育む養護と教育

2. 保育目標

① 明るく	② しっかり	③ のびのびと生きる	④ 心豊かな子ども
<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔あふれる子ども ・心身共に健康でたくましい子ども ・みんなと力を合わせてやりとげられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な挨拶と返事ができる子ども ・最後まで一生懸命取り組める子ども ・よく聞き、自分の気持ちを伝えられる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の事は自分でできる子ども ・自然に親しみ感謝する子ども ・なんでもよく食べ、力いっぱい遊べる子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流を通して郷土を愛する子ども ・優しく思いやりのある子ども ・個性豊かに自分を表現できる子ども

3. 重点目標と評価

重点的に取り組んだ目標	評 価
<p>保護者の子育てのサポーター的存在となるように努め、信頼関係の構築をし、園児の成長の喜びを共有できるようにする。</p> <p>園児が安全な環境の中でのびのびと生活し成長するために、防犯・防災・交通安全に対する体制を整備し、保護者への周知、園児との訓練実施を行う。</p>	<p>保護者と送迎時などに園児の様子を伝えあい、成長の喜びを共有できているが、子育ての悩みを相談できるパートナーとしての役割が不十分な部分があり課題である。</p> <p>様々な状況を想定し避難訓練を実施。災害時等の行動の仕方などを絵本・紙芝居を使って伝えることで自分を守る力を身に付けている。また、職員が自身の役割を確認する機会を持ち意識を高めている。</p>

4. 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	取組状況	評価
教育・保育内容について	<p>体験や人とのかかわりを通して、思考力・探求心、自立心を育み、学びに向かう力を身に着けていく。</p> <p>常に見守られ、安心した環境の中で愛着形成を築いていくと共に、生きる力を育む。</p>	<p>自ら考えて行動する力を育むために、状況に応じた関わりや言葉がけを心がけている。集団活動と自発活動を取り入れた教育を行う。</p> <p>年齢を問わず、家庭的の中にいるような雰囲気大切にし情緒の安定を図ると共に、自己肯定感を持ち生きる力を育めるよう関わる。</p>	<p>集団生活や異年齢児との交流の中でこそ感じられる共同性や思いやりが育っている。自主性、自立心の成長を促し関わり、言葉がけが適当であるか今後も保育教諭自身の省察を要する。</p> <p>特に朝夕の精神的ケアが必要であると感ずる。スキンシップ、声掛けを十分に行うことで緩和が少しずつ見られた。</p>
防災・安全対策について	<p>近年全国的に大きな災害、犯罪が起きており、避難弱者である園児を守るべき措置を行う。</p> <p>多数の保護者が送迎時に車の乗り入れをするため、安全への対策が必要である。</p>	<p>有事の際、園児が落ち着いて避難するために様々な災害を想定し、職員の指示に耳を傾けることが習慣となる訓練を行う。</p> <p>安全な送迎ができるよう、保護者発信で車の乗り入れ時、駐車時のルールを決定し、周知をする。</p>	<p>園内放送時に内容が聞き取れるよう静かにしたり、保育教諭の笛の合図で集合や行動ができるようになってきている。津波時の避難場所である芦刈観瀾校へ全園児が避難する場合約30分を要する為、情報収集を行った上、園舎2階部分への垂直避難を実施することとする。</p> <p>保護者以外の送迎の場合に、ルールが守られていない為、その都度伝えて協力を仰いだ。保護者の意識が高まり安全な送迎ができている。</p>
職員研修について	<p>認定こども園教育保育要領を理解し、本園の保育目標と合わせながら全職員が共通理解し、自己研鑽できる研修を行う。</p>	<p>認定こども園教育保育要領の読み合わせをしていくことで、共通理解、教育・保育の目標が統一できる。</p> <p>キャリアアップ研修会で専門分野の研修を受講し、他職員に伝え、職員の資質向上に努める。</p>	<p>園内研修を毎月行っているが、全員参加や十分な時間の確保が難しい部分があり検討の必要がある。</p> <p>キャリアアップ研修会や県内外での研修会に参加することで自身の教育・保育内容の見直し、充実に繋がり、他職員へも周知できた。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な内容
特別支援教育について	特別支援コーディネーターを選任し、在園する対象園児について保護者との共通理解を行い、一人ひとりに対する個別指導の在り方を研究する。 保育教諭が発達の理解を深め、職員全体で園児の特性について話し合い関わっていく。
地域の子育て支援の 拠点としての役割	認定こども園としての役割である地域の子育て支援の拠点として、子育て相談、園庭開放などの周知が不十分であるため、様々な方法で発信し、保護者が子育ての喜びを感じられるようサポートしていく。

6. 園の運営について

初年度経過後、保護者との信頼関係構築を課題として園が一丸となっていることが見受けられた。様々な場面で一人ひとりの園児への関わりを大切にされた教育・保育が行われており、来園すると園児が進んで挨拶し、生き生きと過ごしている姿が見受けられる。今後も職員が良い人的環境となり、成長を促していただきたい。

令和元年5月31日
社会福祉法人 芦刈福祉会
理事 三ツ家 和博

7. 財務状況

平成30年度、あしかりこども園の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係帳簿等を慎重に審査した結果、いずれも正確であり園の運営、財政管理は適正に行われていると認められます。

令和元年5月31日
社会福祉法人 芦刈福祉会
監事 北島 信良